

基本目標① 出会い・結婚・出産・子育てしやすい環境づくり								
津市に住み、結婚したい、子どもを産みたい、子どもを育てたいと思う人たちの希望がかなう環境づくりを進めます。								
数値目標	計画策定時 (H26年度)	目標値 (R1年度)	実績値					第2期人口ビジョン・ 総合戦略目標値 (R6年度)
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
出生数	2,196人/年	2,200人/年	2,057人/年	2,150人/年	1,990人/年	2,080人/年	1,933人/年	2,200人/年
R1年度実績 対する分析	全国的な出生数の減少を背景として、本市においても令和元年度は目標値を下回る結果となった。婚姻数の減少が出生数の減少に大きく影響しているものと考えられる。							
総合評価	全国的に出生数が減少傾向にある中で、最終年度は1,933人/年と目標値を下回る結果となったものの、増加に転じる年度もあり、減少傾向の中で一定程度の水準を維持することができた。 一方、死亡数は増加傾向にあり、当面その傾向が続くことが予想されることから、人口の急激な減少が起きないようにするためには、自然減の影響をいかに小さくするかがポイントとなる。出生数を維持、若しくは増やしていくために、婚姻数が減少傾向にある現状を踏まえ、まずは、出会い、結婚をサポートする施策を継続するとともに、結婚したい、子どもを生み育てたいという人の希望がかなうよう、妊娠・出産から子育てへの途切れない支援に引き続き取り組んでいく。							

基本目標② 産業振興、企業立地等による安定した雇用の創出・拡大								
津市で家庭を持ち、安定した暮らしをしたいという人の希望をかなえるために必要となる雇用の創出・拡大を図ります。								
数値目標	計画策定時 (H26年度)	目標値 (R1年度)	実績値					第2期人口ビジョン・ 総合戦略目標値 (R6年度)
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
従業員数 (雇用保険被保険者数)	84,133人/年	86,000人/年	86,473人/年	89,057人/年	91,521人/年	91,653人/年	92,294人/年	95,200人/年
R1年度実績 対する分析	従業員数については、昨年度からさらに641人増加し、目標値を大きく上回る92,294人/年となった。特に女性の雇用保険被保険者数の伸びが顕著であり、雇用の場において女性の働きやすい環境の整備が着実に進んでいるものと考えられる。							
総合評価	従業員数については、計画初年度において目標値を達成して以降、着実に増加し、目標値を大きく上回る92,294人/年となった。要因としては、これまでの景気回復基調を受け、全国的に雇用が拡大したことに加え、平成29年に雇用環境改善に係る法整備が進んだことが考えられるが、その後も増加していることから、雇用の場は順調に拡大しているものと考えられる。 新型コロナウイルス感染症による企業・事業者への影響が長期化していることから、今後も引き続き産業振興や起業・創業支援等による雇用の創出に取り組むとともに、持続可能な地域経済を維持していくため、事業承継に対する支援にも注力していく。							

基本目標③ 定住・還流・移住などによる新たなひとの流れの創出								
津市への定住や移住、交流といった観点からの、津市への新たなひとの流れの創出を図ります。								
数値目標	計画策定時 (H26年度)	目標値 (R1年度)	実績値					第2期人口ビジョン・ 総合戦略目標値 (R6年度)
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
転出超過数 (転出数－転入数)	-432人/年	150人/年	286人/年	-47人/年	-645人/年	-1人/年	-87人/年	転入超過数 100人/年
R1年度実績 対する分析	県内移動における転入超過傾向や外国人住民の増加を背景として、令和元年度は87人/年の転入超過となり、目標値を達成。4年連続で転入数が転出数を上回る状況が維持することができた。 年齢別の純移動数は、20代が最も大きく、進学、就職に際しての移動が大きな要因となっていることが想定される。							
総合評価	総人口が緩やかな減少傾向にある中で、4年連続で転入超過となり、社会動態の面では、一定の人口を維持することができた。しかしながら、年齢別の移動数は、20代、30代の転出数が最も大きく、進学、就職が大きな要因となっていると考えられることから、当該世代に対する進学や雇用と連動した定住促進に引き続き取り組む必要がある。 また、外国人の転入数は年々増加していることから、外国人の受け入れ環境の充実に向けた取組も重要となる。 一方で、県内の移動状況としては、転入超過が続いており、特に20代、30代の年齢層の転入数が多いことから、魅力ある地元企業や子育て環境に関する情報を積極的に発信し、県内外からの転入促進施策にもさらに取り組んでいく。 さらに、新型コロナウイルス感染症の影響とみられる都市圏での人口動態の動向を注視しながら、事態の収束後を見据えた移住促進への取組を検討していく。							

基本目標④ 人と人が繋がった暮らしやすい地域づくり

地域に暮らす人たちが明るい将来を思い描き、互いに支え合い、笑顔があらわれる地域づくりを進めます。

数値目標	計画策定時 (H26年度)	目標値 (R1年度)	実績値					第2期人口ビジョン・ 総合戦略目標値 (R6年度)
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
市政アンケート等で 「津市は住みやすい」 と回答した人の割合	80.1%	90.0%	-	79.6%	-	81.4%	-	90.0%
R1年度実績 対する分析	令和元年度は市政アンケート（2年に1回の実施）の実施なし。							
評価	市政アンケートにおいて、「津市は住みやすい」と回答した人の割合は、目標値を下回ったものの、平成26年度の策定時点からは1.3%の増加となっている。また、同アンケートにおいて、津市のイメージとして、「自然環境に恵まれている」に次いで「地域での人間関係が良い」という項目の評価が高くなっていることから、今後も人と人がつながる地域づくりに向けた施策を着実に推進していく。							